

令和5年度に向けて・努力点全体会

1 研究主題

目標を実現する学びに向かう児童の育成 ～ICTの活用を通して～

2 主題設定について

昨年度より、「目標を実現する学びに向かう児童の育成」を主題に掲げ、学校努力点に取り組んできた。「ICTの活用」を手立てとした様々な実践を通して、児童の学びに対する興味・関心を高め、学習を効率的に行うことができた。また、図やグラフ、シンキングツール等は、思考を整理する上で大いに役立った。その他にも、ロイロノートやスカイメニュークラウドを使い、考えの共有を行うことで、互いの考えを比較したり、関連付けたりすることはもちろん、自身の考えを見直し、最適解を追究する姿勢を育むことにもつながった。こういった成果がある一方で、次のような課題もある。

○ICTを活用するよりも、ノートやプリントの方が効果的な学習内容がある

○タブレット操作やタイピング等、個々の能力差によって達成度が変わる

○授業に対する「達成感」は得られるものの、「深い学び」まで至っていない

このような課題を解決するために、次年度からの授業実践では、以下のような手立てが有効であると考えている。

○昨年度、成果のあった実践をブラッシュアップして行う

○ICTの使いどころを精選した授業構成を考える

○個々の能力に応じて、タイピング練習を行う

○ICT機器を継続的に使用し、操作に慣れる

○学びを深めるために、「ロイロノート」や「スカイメニュークラウド」を用いて思考を共有する

昨年度に引き続き「ICTの活用」を手立てとし、新学習指導要領に位置付けられている「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」に重点を置き、目標やねらいを達成するために、学ぶことのできる児童の育成を目指して、学校教育努力点を進めることとする。

今年度は、昨年度成果のあった手立てに改善・改良を加えて継続使用することで、一人一人の学びを深め、「目標を実現する学びに向かう児童の育成」を主題とし、実践を進める。

3 研究の方法

- (1) 各学年の実態に応じて、学年ごとに手立てを話し合う。
 ※ 学年で、実践の振り返りや検証（一人1授業実践）を行う。各授業の事前・事後検討会は学年で必要に応じて行う。指導案を見て、気付いたことを伝えたり、参観後に事後検討会に参加したりすることは、適宜、よいこととする。
- (2) 学年内の授業実践は、参観するようにする。また、異なる部会の授業も一人1回は、参観するようにする。
- (3) 中間報告会、最終報告会で、授業の工夫や活動の内容を、学年ごとに発表する。
- (4) 授業実践の際は、日程調整を正確にする。1日に二人以上が授業を行うことがないように係が調整する。

4 年間計画

月	日	曜	内 容	
4	4	火	努力点推進委員会	本年度の方針・計画の検討
	11	火	努力点全体会	本年度の方針・計画決定
			学年部会	各学年の年間計画の検討、 前期実践・授業の検討
	24	月	年間計画報告書提出日	
	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
5	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
6	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
9	適宜		学年部会	前期実践・授業の検討
10	2	月	中間報告書提出日	
	5	木	中間報告会	前期の成果・課題と後期計画の検討
11	適宜		学年部会	後期実践・授業の検討
1	適宜		学年部会	後期実践・授業の検討
1	31	水	最終報告書提出日	
2	5	月	最終報告会	年間の成果・課題
			学年部会	次年度に向けての方向の検討
	29	木	努力点推進委員会	次年度に向けての方針・計画の検討
3	4	月	努力点全体会	次年度に向けての方向・計画の確認

5 研究組織図

